これ……

新し……

うな高率の伸びは期待できず、せいぜい実質二～三％の成長にとどまり、いわゆる本格的な低成長時代の到来を覚悟しなければならない。

従って、経営者はこの低成長時代の経営の在り方について、明確な方向性を確立しなければならない。今日、多くの企業で展開されている有力な戦略として、次の二つを紹介したい。

その一つはリストラクチャリング戦略。これは事業の再構築といわれ、バブル……ことが最も有効である。

今日、わが国の主要企業の損益分岐点比率は九三％台に上昇し、危険水域といわれている九〇％を上回っている。これを八〇％以下の健全水域まで引き下げなければならない。

……経営戦略といえよう。

リエンジニアリング

その二はリエンジニアリング戦略。

これは仕事の流れの抜本的革新で、単なるムダの排除とか、合理化、コスト削減ではなく、これまでの仕事の分業体制による時間、費用、エネルギー、思考方法等の面でデメリットが大きくなり、この面での革新が求められている。

リエンジニアリングは、情報化を武器に、このデメリットを解消する手法として、世界的に関心を集め、今日的経営手法として一大ブームとなっている。

いずれにせよ、両戦略ともその成果は顧客に適正に還元されなければ、成功しないであろう。いま一度、企業の繁栄の王道は「顧客志向による顧客満足」に努力する以外に道はない。決して奇策などはない。つまり、当たり前のことをコツコツ飽きずに努力するのが商いである。

いかに顧客に、ひいては社会に役立つか、奉仕するか、喜んでもらうかが商売の本質である。そうすれば、相手は必ず感謝し、その喜びを他人に喧伝（口コミ）してくれるであろう。かくして、新顧客が増えて……すれば、企業もまたエンドレスな存在として、永遠に生き残れるのである。

（岡山商科大学商学部長）

とりごえ・よしみつ　一九四二年岡山県生まれ。愛知学院大学大学院商学研究科博士課程修了。米国イリノイ大学客員研究員などを経て、現職。著書に『新マーケティング原論』『現代地域開発論』（共）など多数。

文化

彗星が木星に衝突

衝撃波が観測される可能性も

家　正則

この七月十七日の朝から二十二日の午後（いずれも日本時間）にかけて、大小二十一個に分裂したシューメーカー・レビー彗星が次々と木星に落下することが確実となり、天文学者を興奮させている。

彗星といえば、これまでにもハレー彗星などの接近時には、新聞などでも大きく報道され、アマチュアファンの期待を集めたが、思ったほどの明るさにはならず、期待を裏切られたことがあった。明るさの予想は経験則に基づくもので外れることもあるが、軌道の予報は位置測定と天体力学に基づくもので十分に信頼できる。

一九九三年三月二十四日にシューメーカー夫妻とレビー氏によって発見されたこの彗星は、一列にろうそくの灯を並べたような面白い形をしている。発見後、その軌道を調べたところ、一九九二年七月に木星にニアミスをしていたことが分かった。このとき、木星の引力で軌道が変化し、今回衝突することになったようだ。

一九九二年の最接近時には木星半径の約一・二倍程度にまで近づいたらしく、このため木星の潮汐力で彗星が引き裂かれたものらしい。潮汐力の作用は地球の海が月の方向と月と逆の方向に膨れるという現象と同じである。

地球ではこのため、毎日二回潮の干満がある。木星の潮汐力により分裂したのだとすると、彗星の本体は硬い石のかたまりというよりは、いわば溶けかかりの雪だるまのようなものと考えるほうが自然である。

木星は太陽になりそこねた星であり、その成分は水素が約九〇％、ヘリウムが一〇％、そのほかの元素が一％程度含まれているとされている。高圧状態にある深部では水素が金属状態となり、表面近くでは液体状態になっている。木星の大気は水の雲の外側をアンモニアの雲が厚く覆っていると考えられている。

このような木星に彗星が衝突すると、いったい何が起きるのであろうか。とてつもない衝突のエネルギーが熱となり、一瞬の閃光を発するかもしれない。衝突の衝撃で巨大なきのこ雲ができるかもしれない。また衝突の衝撃が波となり、木星全体に広がっていくのが観察できるかもしれない。

木星への彗星の落下現場は木星の裏側であり、残念ながら地球からは直接見ることができない。

だが、裏側といっても衝突地点では木星の夜明け直前の出来事となるので、一時間以内に衝突現場は太陽側、つまり我々から見える側に回り込んでくることになる。

衝突直後の衝撃の広がる様子を地球から観測できるかもしれない。木星を波が伝わる様子を測定できれば、地震波の観測から地球の内部を診断できるのと同じようにして、木星の内部構造を初めて測定することができるかもしれない。

前代未聞のこの事件が間近に迫った今、国立天文台ほか内外各地の天文台でさまざまな観測の準備が進められている。

私たちがハワイ島で建設を進めている世界最大の八㍍望遠鏡の完成より四年ほど早めのイベントであることが、ちょっぴり残念である。

（国立天文台教授）

いえ・まさのり　一九四九年北海道生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学助教授などを経て、国立天文台教授（大型光学赤外線望遠鏡計画推進部主幹）。著書に『銀河が語る宇宙の進化』など。

「大阪ぎらい物語」で……

足げな表情が印象的だ。ここでは名作中の名作「大阪ぎらい物語」を紹介する。

◇

舞台は関東大震災の翌年の大阪・船場。老舗（しにせ）を誇る「河内屋」の女主人・おしず（酒井光子）には二つの悩みがあった。一つは跡取りの長男・新太……